構造力学基礎演習
Exercises in Fundamental of Structural Mechanics

教員名	多田元英，倉本洋，瀧野敦夫							
教員連絡先 （研究室所在地・TEL）	吹田キャンパス　Ｓ１棟７階７１１室 電話：06-6879-7355							
E-MAIL アドレス	atsuo@arch.eng.osaka-u.ac.jp							
履修対象	地球総合工学科建築工学コース（２年次）							
単位	1	セメスター	３					
受講条件	構造力学基礎を受講していることが望ましい.							
授業の教育目的･目標 他科目との関連	建築構造物の構造解析法に関する基礎的な理解を深めるために、建築骨組の構成要素に対する力学と基本的な構造形式の解析法について、演習に基づいて習得することを目指す。							
学習・教育目標	A	B	C	D	E	F	G	H
	○			◎				

授業計画・概要	テーマ	概要	学習･教育目標
	静定・不静定および力の釣合い（2回）	いくつかの例題を用いて材料・構造力学の基礎となる静力学の基本事項に関して演習を行う。(包括2回)	A D
	静定梁（6回）	いくつかの例題を用いて静定梁の解析法について理解を深めるとともに、種々の静定梁の解析に関して演習を行う。(包括6回)	A D
	応力とひずみ（4回）	いくつかの例題を用いて、軸力や曲げモーメントを受ける部材の応力とひずみを求めるための演習を行なうとともに部材断面の断面積や断面二次モーメント等の断面諸量を求めるための演習を行い、これらの諸量と応力・ひずみとの関係について理解を深める。(包括4回)	A D
	静定トラス（3回）	いくつかの例題を用いて静定トラスの解析法について理解を深めるとともに、種々の静定トラスの解析に関する演習を行う。(包括3回)	A D

教科書	中村恒善編著「建築構造力学図説・演習Ｉ」
参考図書・文献等	Strength of Materials, S. P. Timoshenko, McGraw-Hill
成績評価方法・評価基準	Dについてはレポートで評価する（70%）。 Aについては講義時に行う小レポートで評価する（30%）。
オフィスアワー	随時 e-mail にて対応
コメント	構造力学の基礎となる演習なので十分な理解が望ましい。